

### 3 地域別の動向

#### (1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方修正、    は下方修正 )

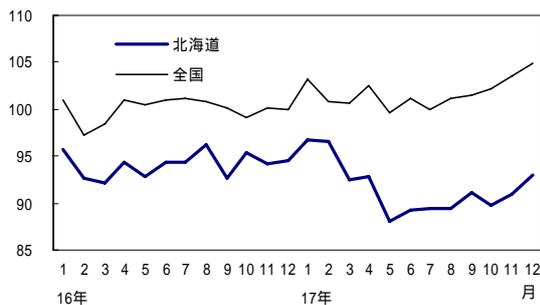
#### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 17 年 11 月)	今回 (平成 18 年 2 月)
景況判断	やや弱含んでいる	持ち直している
鉱工業生産	おおむね横ばい	緩やかに増加
観光	やや持ち直している	持ち直している
個人消費	やや弱含んでいる	おおむね横ばい
住宅建設	増加	大幅に増加
雇用情勢	依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きがみられる

#### 1. 生産及び企業動向

- (1) 第一次産業は、生乳生産及び水産業の水揚量は前年を上回っている。  
生乳生産は、牛乳等向けが減少した一方、乳製品向けが増加したことから、総量では、996,297t と前年比で 4.1% 増となった。水産業（主要 11 港主要品目）は、この時期の主力であるさんまが前年を大幅に上回ったことから、水揚量は前年を上回っている。
- (2) 鉱工業生産は緩やかに増加している。  
食料品・たばこは、前期の発泡酒などの反動もあり 2 期ぶりに減少している。パルプ・紙は、11 月に製造ラインの定期修理が入ったことなどにより減少している。電気機械は、モス型半導体集積回路（ロジック）、携帯電話、自動車向けの電磁リレーなどが好調であったことから増加している。窯業・土石は、セメントなどが増加している。金属製品は、携帯電話用の鉄塔などにより増加している。また、輸送機械では、自動車駆動伝導装置などが好調に推移している。なお、石油・石炭製品では寒波の影響もあり、灯油などが好調であった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
食料品・たばこ	26.5	4.5	4.4	2.7	2.7
パルプ・紙	12.1	1.0	1.3	1.0	5.5
電気機械	9.5	2.4	1.6	1.9	14.8
窯業・土石	9.0	11.1	9.5	5.8	6.7
金属製品	9.0	9.2	5.1	4.4	6.6
鉱工業	100.0	0.1	1.3	1.0	2.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。

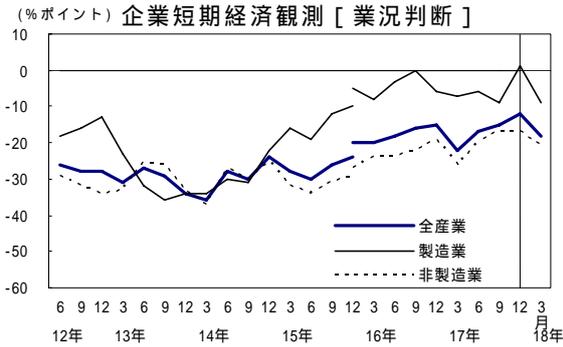
2. 10~12 月期は速報値。

(備考) 1. 12 年 = 100、季節調整値。

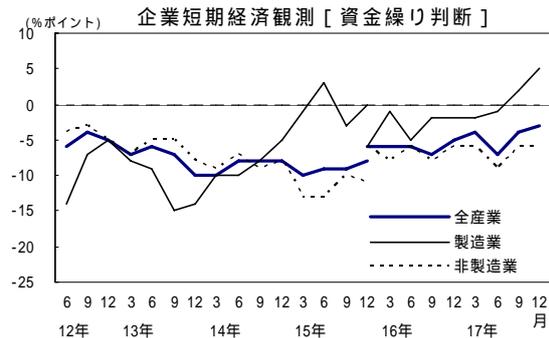
2. 平成 17 年 12 月の北海道は速報値。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

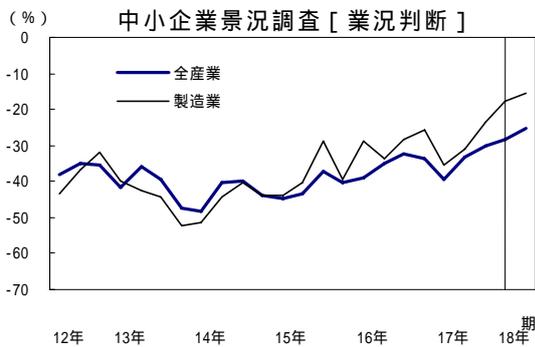
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年3月は予測。15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

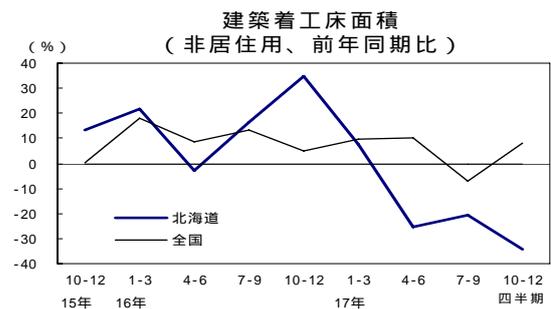
「燃料価格差を料金に反映させる動きが浸透して、大半の荷主より収受できるようになってきたが、船社の運賃とはいまだに格差があり、厳しい負担増が続いている(輸送業)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(4) 17年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

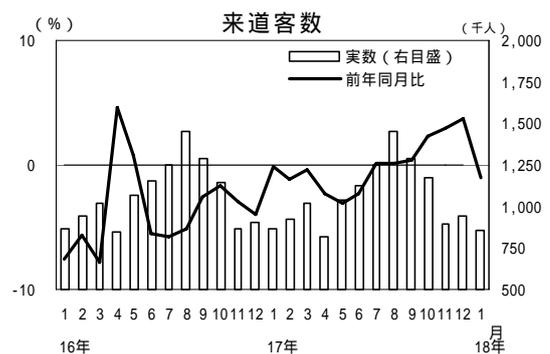
	(前年度比、%)	
	16年度実績	17年度計画
全産業	8.0	9.4(2.7)
製造業	21.2	49.6(3.8)
非製造業	2.0	8.6(2.0)

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は持ち直している。

来道客数は、昨年の知床の世界自然遺産登録、旭山動物園の全国的知名度の確立などもあり、1月は前年をやや下回ったものの、持ち直している。主力である東京方面からの航空旅客は7か月連続で前年を上回っている。なお、台湾からのチャーター航空便の増加も来道者数の増加に寄与している。



(備考)北海道観光連盟調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

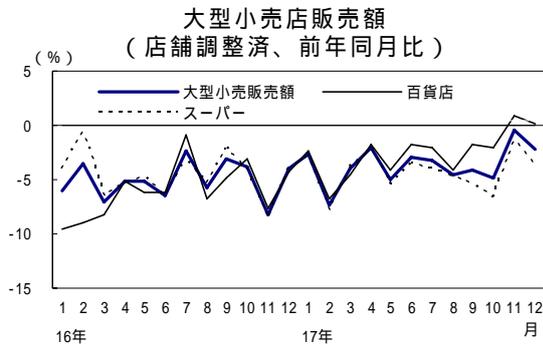
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は化粧品などが前年を上回ったものの、衣料品や飲食料品が振るわなかった。11月はコートなどの衣料品とともにブーツなどの身の回り品が好調であった。また化粧品、宝飾・貴金属なども好調であった。12月も紳士服などの衣料品が引き続き好調に推移し、海外ブランドのバッグ、アクセサリなどの身の回り品、化粧品、宝飾・貴金属なども好調であった。なお、日本百貨店協会によると、北海道地区の1月の売上高は、前年同月比で1.2%減となっている。

スーパーは、寒波・大雪の影響により衣料品及び身の回り品の減少幅は縮小し、主力の飲食料品では客足は戻りつつあるものの、米や野菜の単価下落が影響し、前年を下回る動きが継続している。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

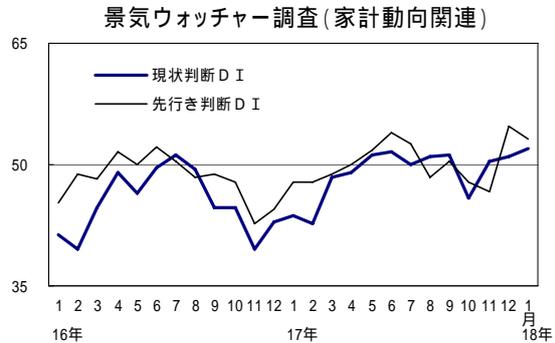
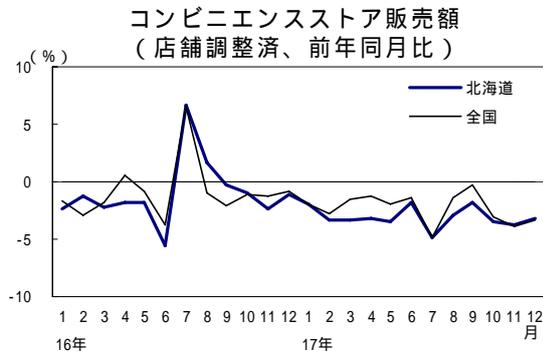
「昨年12月の歳末商戦前後から来客数が回復傾向にある一方で、販売単価については、野菜の部分的な相場高、米の価格低下幅の縮小などにもかかわらず、全体の低下傾向に歯止めが掛かっておらず、客単価も伸び悩みが続いている(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同月比、%)

	17年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	4.6	3.3	3.9	2.5
百貨店	4.4	2.5	2.5	0.3
スーパー	4.7	3.8	4.7	3.9
コンビニ	2.9	2.8	3.2	3.5
景気ウォッチャー	44.9	50.6	50.7	49.0

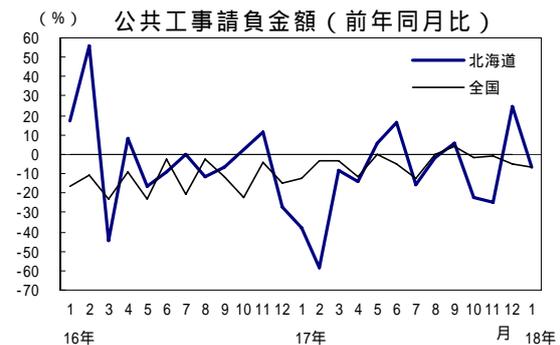
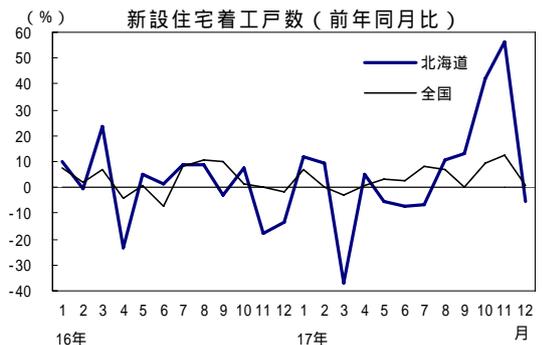
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家が前年を大幅に上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年とほぼ同水準となっている。

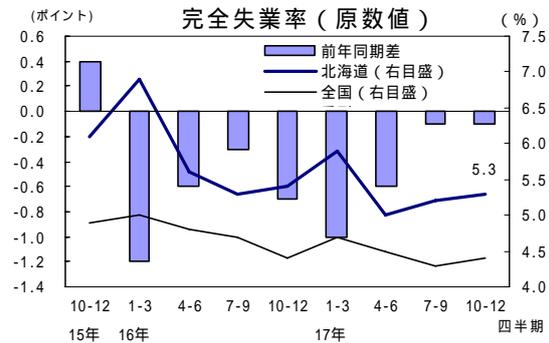
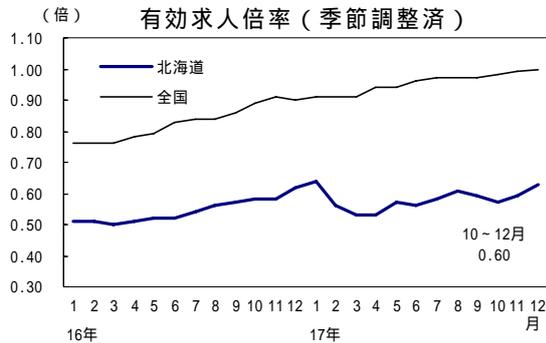


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]

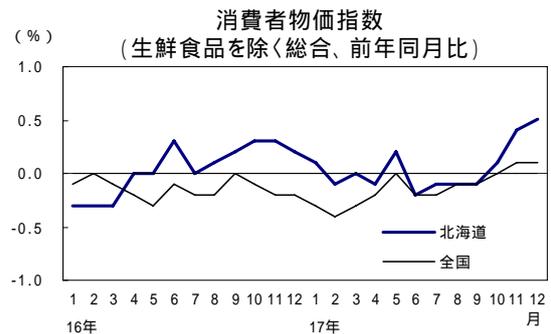
「正月商戦ということもあり、スーパー、家電量販店を中心に販売スタッフ派遣の依頼が多く、併せて販売促進に関連する人材派遣の依頼も多数寄せられた（人材派遣会社）」など「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「新規求人は増加傾向にあるが、非正規雇用化が進んでいる（職業安定所）」など「変わらない」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は、件数がおおむね横ばいとなり、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	18年1月
倒産件数	168	132	142	138	46
(前年比)	10.5	19.0	29.1	1.5	14.8
負債総額	787	265	421	376	132
(前年比)	76.9	38.9	85.8	26.4	36.3



景気ウォッチャー調査（1月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・地元客の動きは鈍いが、本州からのツアー客や台湾・香港などからの海外旅行客が好調であり、宿泊客が増加しつつある。ただし宿泊単価が低下しており、売上面では手放しで喜べない状況である（観光型ホテル）。

<先行き>

- ・北海道開発局の予算削減や北海道庁の人件費削減などが消費マインドにマイナスの影響を及ぼす懸念がある（スーパー）。

景気ウォッチャー調査（合計）

